（様式例第11）

令和6年9月2日

栃木県知事　殿

住　所　栃木県栃木市境町27番21号
申請者　一般財団法人とちぎメディカルセンター
代表理事理事長
氏　名　　森田　辰男　　印

とちぎメディカルセンターしもつがの地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法12条の2規定に基づき、2023年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒329-0043 栃木県栃木市境町27番21号
氏名	一般財団法人とちぎメディカルセンター　代表理事理事長　森田　辰男

（注）開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

とちぎメディカルセンターしもつが

3　所在の場所

〒329-4498 栃木県栃木市大平町川連420番地1 電話（　0282　）　22-2551

4　病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	6床	床	床	301床	307床

（様式例第12）他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

地域医療支援病院紹介率	84.5%	算定期間	2023年4月1日～2024年3月31日
地域医療支援病院逆紹介率	87.2%		

算出根拠	Ａ：紹介患者の数	9209人
	Ｂ：初診患者の数	10893人
	Ｃ：逆紹介患者の数	9502人

１．地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

（注）１　「地域医療支援病院紹介率」欄は、ＡをＢで除した数に100を乗じて、小数点以下第１位まで記入すること。

（注）２　「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、ＣをＢで除した数に100を乗じて、小数点以下第１位まで記入すること。

（注）３　それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

5　施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	（主な設備）　　人工呼吸器　心電図　ベッドサイドモニター 病床数　8　　床　　除細動器　超音波診断装置　血圧監視装置 輸液ポンプ　輸注ポンプ　等
化学検査室	（主な設備）骨髄像計数装置　血中ビリルビン定量計　顕微鏡　　血液保冷庫 遠心機　全自動尿分析装置　尿沈査児童分析装置　全自動便分析装置　自動血球分析装置　全自動血液凝固測定装置 生化学自動分析装置　糖尿病検査装置　血液ガス分析装置　全自動免疫装置
細菌検査室	（主な設備）バイオガードクリーンベンチ　遠心機　恒温孵卵器　インキュベーター　オートクレーブ　落射蛍光顕微鏡　感熱滅菌器　遺伝子装置
病理検査室	（主な設備）ミクロトーム　自動細胞収集装置　システム生物顕微鏡 病理標本自動封入装置
病理解剖室	（主な設備）解剖台　マクロ撮影装置　電子天秤
研究室	（主な設備）オーダリングパソコン　インターネットパソコン
講義室	室数　　1　室　　収容定員　150　人音響装置　プロジェクター 椅子　机
図書室	室数　　1　　室　　蔵所数　　4000　冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	（主な設備） 保有台数　1　　台
医薬品情報管理室	[専用室の場合]　　床面積　7.25　　㎡

（注）　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

（様式例第 13）　　救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1　　重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

職種	氏名	勤務の態様	勤務時間
医師	大森　達人	常勤　　専従	38.75 時間
医師	篠原　安武	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	黒須　敦	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	倉田　秀一	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	角田　真人	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	宮原　晶子	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	小川　和紀	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	大塚　陽介	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	鈴木　悠介	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	和地　純佳	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	正和　明哲	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	大岡　優希	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	鈴木　智成	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	小林　高久	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	髙谷　美成	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	小泉　大	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	近藤　悟	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	塩澤　幹雄	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	北林　宏之	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	田原　真紀子	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	渡部　純	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	小林　冬美	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	萩原　浩好	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	矢野　雄一郎	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	金谷　裕司	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	福島　崇	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	樋貝　保弘	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	赤澤　規広	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	清水　貴弘	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	小林　伸行	常勤　　非専従	38.75 時間
医師	寺内　文人	常勤　　非専従	38.75 時間

医師	茗荷　宏昭	常勤　　非専従	38.75時間
医師	梁瀬　敦史	常勤　　非専従	38.75時間
医師	山下　達也	常勤　　非専従	38.75時間
医師	前川　奈々	非常勤　　専従	7.75時間
医師	多田　周平	非常勤　　専従	7.75時間
医師	佐久間　大智	非常勤　　専従	7.75時間
医師	藤屋　将眞	非常勤　　専従	7.75時間
医師	石橋　尚弥	非常勤　　専従	7.75時間
医師	内田　雅俊	非常勤　　専従	7.75時間
看護師	巻島　ヒロ子	常勤　　専従	38.75時間
看護師	田代　美紗	常勤　　専従	38.75時間
看護師	茂木　匡広	常勤　　専従	38.75時間
看護師	長野　友紀	常勤　　専従	38.75時間
看護師	福田　悦子	常勤　　専従	38.75時間
看護師	山関　佑奈	常勤　　専従	38.75時間
看護師	大野　恵未	常勤　　専従	38.75時間
看護師	岡田　滋達	常勤　　専従	38.75時間
看護師	生澤　瑞希	常勤　　専従	38.75時間
看護師	井坂　恵理	常勤　　専従	38.75時間
看護師	落合　紀代美	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	齋藤　尚子	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	長　亜矢佳	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	飯塚　千代美	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	武正　智宏	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	阿部　洋子	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	高橋　弘栄	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	鶴見　美香	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	和田　京子	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	安形　敦美	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	成瀬　孝子	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	永島　奈津海	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	石川　恵子	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	茂呂　真理枝	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	古川　みち子	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	浅井　清美	常勤　　非専従	38.75時間
看護師	木塚　康江	常勤　　非専従	38.75時間

看護師	百目鬼　裕子	常勤	非専従	38.75時間
看護師	毛塚　友展	常勤	非専従	38.75時間
看護師	松尾　沙耶香	常勤	非専従	38.75時間
看護師	二ノ宮　圭祐	常勤	非専従	38.75時間
看護師	三関　隆佑	常勤	非専従	38.75時間
看護師	川原井　由香	常勤	非専従	38.75時間
看護師	高田　美結樹	常勤	非専従	38.75時間
看護師	金成　翔史	常勤	非専従	38.75時間
看護師	二宮　夢奈	常勤	非専従	38.75時間
看護師	皆川　昌慧	常勤	非専従	38.75時間
看護師	松嶋　幸彦	常勤	非専従	38.75時間
看護師	中島　真太朗	常勤	非専従	38.75時間
看護師	橋本　智子	常勤	非専従	38.75時間
看護師	舘野　有加里	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	大垣　幸正	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	倉井　栄典	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	大関　直人	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	岡田　治樹	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	佐橋　あゆみ	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	森戸　貴美恵	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	伊澤　結衣	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	天海　祐紀	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	柏渕　恵里佳	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	椎名　涼香	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	清水　千聡	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	山井　彩乃	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	神山　博樹	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	木村　和弘	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	名渕　尚孝	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	小林　芳郎	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	川田　理奈	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	沼田　早希子	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	斎藤　祐太朗	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	津谷　里紗	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	大沢　優衣	常勤	非専従	38.75時間
放射線技師	髙橋　裕之介	常勤	非専従	38.75時間

放射線技師	林　輝笑	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	菊地　加奈子	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	小林 拓弥	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	大垣　拓史	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	手塚　雄一	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	塩谷　宏章	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	池澤　敦夫	常勤　　非専従	38.75時間
放射線技師	早乙女　倫弘	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	飯島　みどり	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	鏑木　克己	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	古内　智央	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	佐橋　千恵	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	福田　準也	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	小松崎　聡美	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	相米　美希	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	美島　千紘	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	大久保　早紀	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	塩田　みのり	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	中山　瑞穂	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	茂田井　彩香	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	髙木　姫奈	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	須田　美沙樹	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	芦野　舞	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	大貫　拓真	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	利根川　友花	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	櫻井　瑠美	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	橋本　和也	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	遠藤　磨美	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	小杉　朱美	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	大垣　加奈子	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	伊原　千尋	常勤　　非専従	38.75時間
検査技師	渡辺　佳津子	常勤　　非専従	38.75時間

2　重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	12床
専用病床	0床

(注)　一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3　重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施　設　名	床　面　積	設　　備　　概　　要	24時間使用の可否
診察室	513.90㎡	除細動器　心電図　患者監視装置 超音波診断装置　人工呼吸器	可
処置室	91.12㎡	患者監視装置	可
検体検査室	207.59㎡	（主な設備）骨髄像計数装置　血中ビリルビン定量計　顕微鏡　分光光度計 血液製剤Ｘ線照射装置　血液保冷庫　遠心機 全自動尿分析装置　尿沈査児童分析装置　全自動便分析装置　自動血球分析装置　全自動血液凝固測定装置 生化学自動分析装置　糖尿病検査装置　血液ガス分析装置　全自動免疫装置　主な設備）	可
細菌室	23.15㎡	バイオガードクリーンベンチ　遠心機恒温孵卵器　インキュベーター　オートクレーブ 落射蛍光顕微鏡　乾熱滅菌器	可
病理室	25.67㎡	ミクロトーム　自動細胞収集装置　システム生物顕微鏡　病理標本自動封入装置 パラフィン包理ブロック作成装置　密閉式自動固定包理装置　凍結ミクロトーム	可
生理検査室	268.14㎡	長時間心電図記録装置　心電計　重心動揺計 除細動器　超音波診断装置　誘発電位検査装置　呼吸機能分析装置　ストレステストシステム　長時間心電図解析システム 脳波計　血圧脈波検査装置	可
放射線室	746.71㎡	体外衝撃波結石破砕装置　Ｘ線一般撮影装置 Ｘ線骨密度装置　乳房用X線装置　全身用血管撮影装置　デジタルX線TVシステム　磁気共鳴画像装置　全身用Ｘ線CT装置	可

4　備考

救急告示病院　令和4年2月1日

(注)　特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。

既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第８号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年７月６日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

5　救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3860人 （1585人）
上記以外の救急患者の数	2240人 （334人）
合計	6100人 （1919人）

（注）それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6　救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台

（様式例第 14）地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用（共同利用）のための体制が整備されていることを証する書類

（2）共同利用の実績

1　共同利用の実績

・コンピュータ断層撮影	512　件
・磁気共鳴コンピュータ断層撮影	1130　件
・胸部・骨盤計測レントゲン	10　件
・骨密度検査	129　件
・超音波検査・ABI 含む	355　件
・ホルター心電図	3　件
・脳波検査	0　件
内視鏡検査	4　件
共同利用を行なった医療機関数	56　件
共同利用を行なった医療機関延べ数	2143　件
開設者と直接関係のない医療機関延べ数	2143　件
病床利用件数	0　件

（注）　前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2　共同利用の範囲等

- コンピュータ断層撮影
- 磁気共鳴コンピュータ断層撮影
- 胸部レントゲン
- 骨盤計測レントゲン
- 骨密度検査
- 超音波検査
- 血圧脈波検査（ABI）
- ホルター心電図
- 脳波検査
- 内視鏡検査

（注）　当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3　共同利用の体制

ア　共同利用に関する規定の有無　[有]・無

イ　利用医師等登録制度の担当者　氏　名：尾花　節子

職　種：事務職員

（注）　共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付する

とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援事業運営管理規程

（趣旨）

第１条　この規程は、とちぎメディカルセンターしもつが（以下「しもつが」という。）が地域の基幹病院として、救急医療をはじめ、かかりつけ医から紹介された専門的治療が必要な患者の診断・治療を行うなど、地域の診療所やクリニック等を支援することを方針とする。さらに、地域医療機関や施設との機能分担を図り、地域医療の向上に資するため、しもつがが行う地域医療支援事業（以下「支援事業」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

（支援事業の範囲）

第２条　しもつがが行う支援事業としての共同利用の範囲は次のとおりとする。

（１）外来及び入院患者診療への参加

（２）手術への参加

（３）医療機器の利用

（４）研究施設（会議室、図書室）の利用

（５）共同連携ベッドの利用

（紹介患者に対する医療の提供）

第３条　しもつがは、地域医療機関からの紹介患者に対し、専門的治療を行うとともに、安全な医療を提供する。

２　しもつがは、病状が安定した患者については、紹介元医療機関または地域医療機関へ逆紹介する。

（登録医療機関）

第４条　登録医療機関とは、総合連携推進本部が、とちぎメディカルセンター病診連携登録医規程（2016年５月１日施行）第３条の規定に基づき登録した医師が所属する医療機関（以下「登録医療機関」という。）とする。

（登録医療機関の責務）

第５条　登録医療機関は、刑法第134条第１項（秘密漏示）に準拠し、しもつがより知り得た患者の個人情報及び診療内容について守秘義務を順守する。

（登録医）

第６条　登録医は、第４条第１項の規定により登録された医療機関に所属する医師とする。

2　しもつがは、共同利用する登録医に対し、その目的に鑑み報酬等は支給しない。

（共同利用）

第 7 条　登録医療機関が第 2 条に規定する共同利用を行う場合は、当該部門の指示において共同利用に当たる。

2　登録医療機関が第 2 条に規定する共同利用を行う場合は、しもつが組織には属せず、しもつが職員に対する直接の指示権限は有しない。

3　登録医療機関に属する医師、看護師、薬剤師、その他の医療従事者が会議室及び図書室を利用する場合、しもつがが定める利用規約等に基づき手続きを行うこととし、その事務は、患者総合支援センター地域医療連携室が行う。

（委託契約書）

第 8 条　登録医療機関が第 2 条第 3 号の規定に基づき医療機器の共同利用をする場合は、別に定める医療機器共同利用委託契約書を締結する。

（救急医療の提供）

第 9 条　しもつがは、24 時間体制で地域医療機関からの紹介に基づく救急医療を行う。

（研修の実施）

第 10 条　しもつがは、地域医療機関の医療従事者を対象に、地域医療の資質向上を目指し各種研修を行う。

2　研修の企画、立案、運営及びその評価を行うため地域医療支援病院教育研修委員会（以下「教育研修委員会」という。）を設置する。

3　教育研修委員会の設置に関することは、別に定める。

（委員会の設置）

第 11 条　支援事業の円滑な運営、諸問題を協議することを目的として委員会を設置する。

2　前項の委員会は、とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会（以下「運営委員会」という。）と称する。

3　運営委員会の設置に関することは、別に定める。

（情報公開）

第 12 条　支援事業及び登録医療機関における情報は、総務課と患者総合支援センター管理のもと、しもつが正面玄関のインフォメーション及びホームページに掲載する。

2　情報公開におけるインフォメーション及びホームページへの掲載内容については、委員会に報告する。

（規程の改廃）

第13条　本規程の改廃は、とちぎメディカルセンターしもつが経営戦略会議の議を経て、しもつが病院長が決定し、委員会に報告する。

附　則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

医療機器共同利用委託契約書

委託者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（以下「甲」という。）と受託者 一般財団法人とちぎメディカルセンター とちぎメディカルセンターしもつが（以下「乙」という。）とは、検査の委託に関し、次の通り契約を締結する。

（目的）

第１条　地域の医療機関との連携を図り医療機器を共同利用することで、地域におけるニーズに対応することを目的とする。

（検査の委託契約内容）

第２条　検査の委託契約内容は、次の各号によるものとする。

１．甲は、検査の実施について乙に委託し、乙はこれを受託するものとする。

２．甲は、検査の実施に当たり検査日時の予約を取り、患者に説明を行う。

３．乙は、受託した検査を行い、その画像データ等を甲に渡す。

（検査項目）

第３条　１．単純 CT 撮影

２．単純 MRI 撮影

３．単純 X 線撮影

４．骨塩定量検査

５．超音波検査

６．脳波検査

７．ホルター型心電図検査

（委託料）

第４条　１．乙が甲に請求できるものは検査料とし、その金額は健康保険法の診療報酬点数により算定した額とする（記録媒体（CD-R 等）の材料費を含む）。

尚、保険点数の改正の場合には、その改正点数に対応した額を請求するものとする。

２．乙は、甲の依頼を受けた患者について算定した金額を暦月末日で締切、一括して翌月の 10 日までに請求明細書を添付し、請求するものとする。

３．甲は、乙から支払い請求があったときは、その内容を審査し速やかに支払うものとする。支払方法については、請求月の翌月末日までに銀行振り込みにて支払うものとする。尚、振込手数料については甲の負担とする。

（委託期間）

第５条　この契約による委託期間は、＿＿年＿＿月＿＿日から＿＿年＿＿月＿＿日までとする。但し、期間満了の１ヶ月前までに甲または乙から解除の意思表示がない時は、期間満了後の１年間この契約を延長するものとし、以後も同様とする。

（検査結果についての疑義）

第６条　検査結果に疑義がある場合は、次の各号により処理するものとする。

１．甲は、検査結果受領後７日以内にその内容を通知しなければならない。

２．乙は、前号の通知を受けたときは、甲と協議のうえ、再検査等適切な処置をしなければならない。

（契約の解除）

第７条　甲または乙は、次のことに該当するときはこの契約を解除することができる。

１．甲または乙がこの契約に違反したとき

２．乙において、受託業務の遂行が著しく困難になったとき

３．健康保険法の改正による受託業務が困難になったとき

（検査実施中の事故責任）

第８条　検査実施中（開始から終了まで）に不慮の事故が生じた場合は、乙の責任において対処するものとする。

（個人情報の保護並びに守秘義務）

第９条　乙は、本契約に基づいて検査を実施するために知り得た患者の個人情報について、検査目的以外に使用しないものとする。

もし、乙により個人情報が漏洩した場合は、乙はその責任を負うものとする。

（契約についての疑義等）

第 10 条 この契約について疑義が生じた場合及びこの契約に定めのない事項については、その都度甲乙協議のうえ解決するものとする。

この契約を証する為、本書２通を作成し、甲乙双方が記名押印のうえ、各１通を保有するものとする。

年　　月　　日

甲　住　　所

医療機関名

院　長　名

乙　住　　所　栃木県栃木市大平町川連４２０番地１

医療機関名　一般財団法人とちぎメディカルセンター

とちぎメディカルセンターしもつが

病院長名　北澤　正文

4　登録医療機関の名簿

医療機関名	開 設 者 名	住　　所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
別紙 「病診連携登録医一覧」				

注　当該病院と同一の２次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	７床

（様式例第15）　地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1　研修の内容

別紙　「とちぎメディカルセンターしもつが研修会一覧　2022年度」

2　研修の実績

（１）地域の医療従事者への実施回数	16回
（２）（１）の合計研修者数	463人

（注）１　研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。
（注）２　（２）には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3　研修の体制

ア　研修プログラムの有無　[有]・無
イ　研修委員会設置の有無　[有]・無
ウ　研修指導者

研修指導者氏名	職　　種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
北澤　正文	医師	婦人科	病院長	42年	教育責任者
藤栄　寿雄	医師	放射線科	副病院長	40年	教育研修委員会委員長
小泉　大	医師	外科	外科部長	28年	
小林　高久	医師	腎臓内科	内科部長	24年	患者総合支援センター長
福田　裕美子	看護師	看護部	看護部長	34年	
早乙女　守子	看護師	看護部	看護副部長	30年	
大垣　幸正	薬剤師	薬剤部	部長	36年	

星野　裕	理学療法士	リハビリテーションセンター	室長	27年	
飯島　みどり	臨床検査技師	臨床検査科	技師長	37年	

(注)　教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4　研修実施のための施設及び設備の概要

施　設　名	床　面　積	設　備　概　要
図書室	85.89㎡	コピー機・パソコン5台　インターネット設備
講堂	236.62㎡	プロジェクター・音響設備・パソコン・電動スクリーン
	㎡	（主な設備）
	㎡	（主な設備）
	㎡	（主な設備）

病診連携登録医一覧

施設数 114 ／ 登録医数 116　　2024年7月24日現在

施設名	医師名	郵便番号	住所	電話番号
【栃木市地区】 58	59			
青木医院	青木　虎男	328-0072	栃木市嘉右衛門町6-10	0282-20-6022
青木眼科医院	青木　真祐	328-0053	栃木市片柳町1-15-26	0282-22-4641
秋元クリニック	秋元　明彦	328-0012	栃木市平柳町2-27-13	0282-29-1131
天海内科	天海　陽子	328-0053	栃木市片柳町1-6-40	0282-23-8333
池森クリニック	池森　亨介	328-0041	栃木市河合町2-3　エクセルパルビル2F	0282-25-2577
石井内科医院	石井　重利	328-0042	栃木市沼和田町49-1	0282-24-1615
いわい町クリニック	荒木　則幸	328-0052	栃木市祝町４－３０	0282-20-3000
うづまクリニック	大森　正規	328-0123	栃木市川原田町1608-1	0282-24-4821
恵川いたみと漢方のクリニック	恵川　宏敏	328-0032	栃木市神田町21-15	0282-22-0006
えぐち内科クリニック	江口　学	328-0017	栃木市錦町9-5	0282-20-2255
大島医院	永谷　久美	328-0053	栃木市片柳町1-17-19	0282-23-2116
おおやクリニック	大家　準	328-0053	栃木市片柳町2-1-50	0282-24-8822
大山整形外科内科医院	大山　守	328-0006	栃木市国府町306-1	0282-27-4609
岡田皮フ科耳鼻咽喉科クリニック	岡田　嘉右衛門	328-0043	栃木市境町21-7	0282-25-2525
金子内科医院	金子　明弘	328-0125	栃木市吹上町1642-1	0282-25-6031
金田医院	石嶋　秀行	328-0031	栃木市日の出町1-6	0282-22-0415
亀田整形外科内科医院	亀田　正裕	328-0075	栃木市箱森町25-72	0282-24-8800
河口医院	河口　達仁	328-0017	栃木市錦町6-12	0282-22-5752
かわしまクリニック	川島　吉人	328-0033	栃木市城内町2-34-20	0282-24-8239
蔵の街診療所	福地　将彦	328-0027	栃木市今泉町1-17-29	0282-29-3131
好生医院	石塚　毅彦	328-0037	栃木市倭町2-25	0282-22-0317
こばやしクリニック	小林　晃	328-0075	栃木市箱森町51-40	0282-25-8300
こひらメディカルクリニック	轡田　啓子	328-0073	栃木市小平町12-17	0282-20-1530
さいとう小児科	斉藤　伸夫	328-0015	栃木市万町30-16	0282-22-0757
桜井こどもクリニック	櫻井　賢司	328-0034	栃木市本町16-9	0282-24-5987
さくら眼科クリニック	大塚　信行	328-0053	栃木市片柳町4-15-27	0282-20-5225
サンライズクリニック	盛川　宏	328-0031	栃木市日ノ出町6-6	0282-24-4702
すずきクリニック	鈴木　紀男	328-0042	栃木市沼和田町10-12	0282-20-2200
星風会病院　星風院	中野　俊至	328-0004	栃木市田村町928	0282-27-3969
関口医院	関口　弘道	328-0014	栃木市泉町21-3	0282-25-2223

施　設　名	医　師　名	郵便番号	住　　所	電　話　番　号
大門内科医院	大門　康寿	328-0071	栃木市大町27-24	0282-24-8131
高田クリニック	高田　良久	328-0015	栃木市万町16-23	0282-23-9133
高田産婦人科医院	高田　秀一	328-0053	栃木市片柳町1-17-3	0282-24-3211
竹田内科小児科クリニック	竹田　航一	328-0011	栃木市大宮町52	0282-29-1233
たまのクリニック	玉野　稔博	328-0053	栃木市片柳町1-6-3	0282-22-3777
ちづかクリニック	腰塚　学	328-0133	栃木市大森町445-4	0282-31-3750
筒井医院	筒井　仁	328-0032	栃木市神田町10-14	0282-22-1191
とちぎ診療所	嶋﨑　勝典	328-0074	栃木市薗部町2-11-4	0282-25-3225
栃木中央クリニック	粟田口　淳子	328-0015	栃木市万町13-13	0282-22-0057
なかつぼクリニック	中坪　直樹	328-0075	栃木市箱森町36-2	0282-20-5252
〃	古清水　岳志			
中野病院	中野　誠	328-0052	栃木市祝町8-1	0282-22-0031
なかむら耳鼻咽喉科クリニック	中村　昭彦	328-0071	栃木市大町22-58	0282-25-5141
中元内科医院	中元　明哉	328-0027	栃木市今泉町2-10-18	0282-27-2325
成田内科	成田　淳夫	328-0041	栃木市河合町9-10	0282-22-3722
なんばクリニック	難波　美津雄	328-0054	栃木市平井町219-5	0282-24-7787
新村ファミリークリニック	新村　清美	328-0011	栃木市大宮町2120-11	0282-28-0115
野﨑医院	野﨑　泰宏	328-0016	栃木市入舟町14-3	0282-24-4809
のぞみ整形外科	林　衛	328-0053	栃木市片柳町4-15-30	0282-20-1313
芳賀耳鼻咽喉科医院	芳賀　雅士	328-0051	栃木市柳橋町6-28	0282-24-4701
はこのもりクリニック	齊藤　浩	328-0075	栃木市箱森町25-62	0282-25-3636
橋本医院	橋本　安紀子	328-0024	栃木市樋ノ口町396-39	0282-22-5875
平野整形外科医院	平野　貴章	328-0012	栃木市平柳町1-35-5	0282-23-7300
ふじさわクリニック	藤澤　亨	328-0043	栃木市境町1-23　隆盛館ビル2F	0282-20-0678
三浦整形外科	三浦　敦	328-0124	栃木市野中町1381-10	0282-20-1158
箕輪内科	箕輪　均	328-0072	栃木市嘉右衛門町10-6	0282-23-5588
山門クリニック	山門　悦子	328-0031	栃木市日ノ出町6-35	0282-22-0765
よこやま内科小児科クリニック	横山　孝典	328-0075	栃木市箱森町38-70	0282-24-8102
わたなべ内科・循環器科クリニック	渡邉　和宏	328-0124	栃木市野中町625-1	0282-21-7528
【栃木市都賀町地区】　3	3			
合戦場クリニック	山田　吾郎	328-0113	栃木市都賀町合戦場212-5	0282-29-1291
船越医院	船越　修二	328-0111	栃木市都賀町家中5986-6	0282-27-5763
百瀬医院	百瀬　正明	328-0104	栃木市都賀町木383-1	0282-27-8210

施　設　名	医 師 名	郵便番号	住　　所	電 話 番 号
【栃木市大平町地区】 13	12			
あおき耳鼻咽喉科医院		329-4425	栃木市大平町新1474-1	0282-43-3387
大平下病院	佐藤　隆文	329-4404	栃木市大平町富田5002-1	0282-43-2222
大平東診療所	新崎　興二	329-4411	栃木市大平町横堀808	0282-22-0173
大平ファミリークリニック	長　政利	329-4404	栃木市大平町富田5-229	0282-43-7500
おおひらレディスクリニック	岸本　恭紀	329-4406	栃木市大平町下皆川753	0282-43-8211
かわたクリニック	川田　浩	329-4421	栃木市大平町西野田640-1	0282-45-2522
くろき内科クリニック	黒木　茂広	329-4401	栃木市大平町牛久199-2	0282-20-5000
整形外科メディカルパパス	町田　敏	329-4423	栃木市大平町西水代1943-1	0282-45-1366
田村医院	田村　治	329-4423	栃木市大平町西水代1835-1	0282-43-3368
鶴見皮膚科	鶴見　純也	329-4425	栃木市大平町新1540-31	0282-45-2212
藤沼医院	藤沼　彰	329-4404	栃木市大平町富田592-1	0282-43-2233
みずほクリニック	小山　照夫	329-4401	栃木市大平町牛久99-2	0282-25-1222
森川内科・外科クリニック	森川　丘道	329-4425	栃木市大平町新1068	0282-45-2225
【栃木市藤岡町地区】 5	5			
腰塚医院	腰塚　康揚	323-1104	栃木市藤岡町藤岡1845-10	0282-62-2072
藤岡診療所	天野　一夫	323-1104	栃木市藤岡町藤岡5005	0282-62-9962
藤岡整形外科クリニック	鈴木　基廣	323-1104	栃木市藤岡町藤岡25	0282-61-1070
持田医院	持田　忍	329-0319	栃木市藤岡町中根115-5	0282-67-3661
わたらせ在宅診療所	伊奈　啓輔	329-0317	栃木市藤岡町帯刀48-1	0282-25-7618
【栃木市岩舟町地区】 11	11			
安純の里	松永　安優美	329-4311	栃木市岩舟町古江405	0282-55-2000
あまがい内科医院	天下井　正弘	329-4308	栃木市岩舟町下津原189-2	0282-55-7811
江田クリニック	江田　証	329-4314	栃木市岩舟町小野寺2575-7	0282-57-1234
熊倉医院	熊倉　忍	329-4316	栃木市岩舟町新里180	0282-55-8425
小松原医院	小松原　利典	329-4307	栃木市岩舟町静550-2	0282-55-2026
静和医院	青木　章	329-4304	栃木市岩舟町静和2166-1	0282-55-2028
しまだクリニック	島田　均	329-4309	栃木市岩舟町畳岡534-1	0282-55-1500
高橋眼科	高橋　直人	329-4307	栃木市岩舟町静843	0282-54-1132
博愛クリニック	石川　博人	329-4307	栃木市岩舟町静1071-1	0282-55-2425
橋本腎内科クリニック	橋本　義孝	329-4303	栃木市岩舟町和泉1457-1	0282-54-3377
長谷川医院	長谷川　秀実	329-4304	栃木市岩舟町静和2114-6	0282-55-7000
【小山市地区】 8	8			

施　設　名	医　師　名	郵便番号	住　　所	電　話　番　号
小山イーストクリニック	大橋　博	323-0022	小山市駅東通り1-32-1	0285-24-2200
小山すぎの木クリニック	朝倉　伸司	323-0806	小山市中久喜1113-1	0285-30-3456
川村内科医院	川村　肇	323-0822	小山市駅南町5-16-12	0285-28-1332
ソフィアホームケアクリニック	吉積　功	323-0812	小山市土塔175-24	0285-39-6940
田村整形外科	田村　興太郎	323-0028	小山市若木町2-10-20	0285-24-6161
船田内科歯科医院	船田　隆	323-0007	小山市松沼578	0285-37-0010
星野病院	星野　聰	329-0201	小山市粟宮1-7-8	0285-23-7227
水越内科クリニック	水越　和夫	323-0826	小山市雨ヶ谷506-1	0285-28-7880
【下都賀郡地区】　6	6			
大橋内科クリニック	大橋　裕二	321-0219	下都賀郡壬生町福和田1003-1	0282-82-8522
小倉医院	小倉　建夫	321-0227	下都賀郡壬生町通町10-5	0282-82-0057
おもちゃのまち内科クリニック	安楽　幸悦	321-0203	下都賀郡壬生町幸町2-11-2	0282-86-1517
野木病院	麦倉　匡史	329-0101	下都賀郡野木町友沼5320-2	0280-57-1011
花の舎病院	近藤　智善	329-0112	下都賀郡野木町南赤塚1196-1	0280-57-1200
ゆりなメディカルパーク	三橋　梅八	329-0111	下都賀郡野木町丸林662-3	0280-57-0000
【下野市地区】　2	2			
めぐみ乳腺クリニック	尾崎　めぐみ	329-0414	下野市小金井2609	0285-40-0088
れもん在宅クリニック	吉住　直子	329-0434	下野市祇園1-13-2	0285-39-8732
【佐野市地区】　5	5			
あきもと小児科医院	秋本　一	327-0844	佐野市富岡町1561-2	0283-21-3322
佐野在宅診療所	羅　英杉	327-0003	佐野市大橋町1997-23	0283-21-2688
鈴木内科クリニック	鈴木　修	327-0831	佐野市浅沼町50-2	0283-23-0117
匠レディースクリニック	中野　貴史	327-0842	佐野市奈良渕町339-4	0283-21-0003
ますだトータルケアクリニック	増田　雄彦	327-0844	佐野市富岡町753	0283-86-9933
【足利市地区】　1	3			
長﨑病院	長﨑　秀彰	326-0053	足利市伊勢町1-4-7	0284-41-2230
〃	千葉　義和			
〃	千葉　泰子			
【宇都宮市地区】　1	1			
中川内科クリニック	中川　洋一	321-0157	宇都宮市幕田町736-9	028-658-8883
【県外】　1	1			
県西在宅クリニック	岩本　将人	306-0205	茨城県古河市関戸1635	0280-23-2618

とちぎメディカルセンターしもつが研修会一覧　　2023年度

医療者対象研修会

No	日付	項目	題名	講師	出席者			
					院外	院内	Web	合計
1	5.30	地域医療支援病院研修会	～各領域における紹介患者の症例検討会～	小泉　大・近藤　悟 小林 冬美・倉田 秀一	8	17	22	47
2	6.15	第20回思川運動器セミナー	『骨粗しょう症薬の特性と長期治療のストラテジー』	井上　大輔	31	7		38
3	7.18	地域医療連携懇話会	新任医師紹介と診療内容・トピックス紹介 (1)睡眠時無呼吸症候群について(2)当院における大腸癌手術の現状	石村　公彦 田原真紀子	Web配信			
4	8.30	地域医療支援病院研修会/ 栃木地区臨床検査技師研修会	医療ミスを防ぐために"ヒトの本能、ヒトの限界を考える" (ヒューマンエラーの背景)	村野　俊一	12	30		42
5	9.27	地域医療支援病院研修会	～各領域における紹介患者の症例検討会～	正和　明哲・大岡　優希 鈴木　智成	2	16	20	38
6	9.28	栃木骨粗鬆症Updateセミナー	骨形成促進薬の作用・効果・安全～テリパラチド・ アバロパラチド・ロモソズマブの違い～」	岩本 潤・町田 敏 林 衛・平野 貴章・渡辺 暢子	14	5		19
7	11.17	地域医療支援病院研修会	肩関節疾患に対するリハビリテーション	渡部　健太郎	Web配信 (院内22, 院外5)		27	27
8	12.2	地域医療支援病院研修会	「ハンドセラピィで用いられる触診法」	わたらせハンドセラピィ 勉強会世話人一同	13	4		17
9	12.14	第21回思川運動器セミナー	『神経障害性疼痛のメカニズムとその治療』	牛田　宏	35	11		46
10	12.15	地域医療支援病院研修会	救急症例検討会	救急体制整備委員 栃木消防職員	3	10		13
11	1.19	地域医療支援病院研修会	救急症例検討会	救急体制整備委員 栃木消防職員	3	11		14
12	1.31	地域医療支援病院研修会	『在宅酸素療法を受ける患者のケア』 ～在宅酸素療法導入の流れと看護師が担う役割	小藤　有希	3	27		30
13	2.16	地域医療支援病院研修会	救急症例検討会	救急体制整備委員 栃木消防職員	3	10		13
14	2.22	地域医療支援病院研修会	～各領域における紹介患者の症例検討会～	小林　高久 寺内　文人	Webのみ	17	21	38
15	3.15	地域医療支援病院研修会	救急症例検討会	救急体制整備委員 栃木消防職員	1	13		14
16	3.21	地域医療支援病院研修会	緩和ケア研修会	石川　和由	7	25	35	67
				合　計	135	203	125	463

地域住民対象研修会

No	日付	項目	題名	講師	出席者			
					院外	院内	Web	合計
1	7.13	市民公開講座	熱中症について/運動と生活/救急車の適正利用について	稲葉　護・麻田　信明 栃木市消防職員				65
2	1.20	市民公開講座	外科医と学ぶ消化器がん講座	北林宏之・小泉大 ・田原真紀子				180
3	3.16	市民公開講座	乳癌セミナー～早期発見から最近の治療まで～	齋藤　修 塩澤　幹雄				53
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
				合　計				298
				出席者総合計	135	203	125	761

（様式例第16）　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長　北澤　正文
管理担当者氏名	事務部長　髙山　淳一

		保管場所	分　類　方　法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		電子カルテ、及び各部門システムにて保存 一部紙カルテは医事課で保存	日誌は部署で管理 紙媒体についてはスキャンし電子カルテに保管後、原本は診療情報管理課で管理
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	救急医療の提供の実績	地域医療連携室	年度・科別に分類
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	閲覧実績	診療情報管理課	年度毎に分類
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	年度毎に分類

（注）　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

（様式例第17）　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	事務部長　高山淳一
閲覧担当者氏名	診療情報管理課長　横塚貴史
閲覧の求めに応じる場所	診療情報管理課、

閲覧の手続の概要

病院管理に関する日誌類

① 事前に閲覧文書、閲覧目的を記載した「文書開示請求書」を閲覧担当者へ提出
② 提出された「文書開示請求書」により、開示の可否を決定
③ 開示可能と決定した場合は、開示請求者に対して開示日時などを連絡
④ 開示当日は、閲覧担当者が立ち会い、閲覧を行う

診療録関係

① 閲覧の希望及び閲覧の書類閲覧日を事前に連絡
② 閲覧当日は、所定の用紙に氏名、患者氏名を記載
③ 閲覧場所で閲覧担当者が立ち会い閲覧を行う
④ 閲覧後、入院中の患者と面談、診察を行った場合は、面談内容を主治医に連絡する。

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	件
	歯科医師	件
	地方公共団体	件
	その他	件

（様式例第18）　　委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4　回	
委員会における議論の概要		
別紙　「とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会議事録」		

（注）　委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

2023年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2023年6月2日（金）13：30～14：00
場所：とちぎメディカルセンターしもつが　講堂

出席者：横山下都賀郡市医師会副会長　町田下都賀歯科医師会会長　武本栃木地域薬剤師会会長
中村栃木県県南保健所所長　毛塚栃木市健康増進課長
上岡栃木市消防本部消防長　中村栃木市消防本部警防課長　北澤病院長　藤栄副院長
永島総合連携推進部長　高山事務部長　福田看護部長　早乙女看護副部長

1．開会　　院長　北澤 正文

2．挨拶　　院長　北澤 正文

2023 年度就任された中村栃木県県南保健所所長、毛塚栃木市健康増進課長、中村栃木市消防本部警防課長からのご挨拶

3．議事

（1）2023年度実績について

① 救急医療の実績

前回3月の会議で2023年1月までの報告だったため、先に2022年度の実績から報告。

◇2022年度月別救急患者数合計

資料1-2

2022年度救急患者数（ウォークイン含む）は5,885名、2021年度は5,555名で330名の増加。
救急搬送患者数は3,449名、2021年度は2,835名で614名の増加。救急搬送患者数の入院率は40.7%、2021年度は41.6%でやや減少。ウォークイン来院は2,436名、2021年度は2,720名で284名の減少。ウォークイン来院の入院率は17.7%、2021年度は16.6%でやや増加。

【当番日】

当番日とは、木曜・土曜・祝日を除く曜日のため、月20日位の日数。
2022年度救急患者数は3,747名、うち救急搬送患者数は2,401名、入院率は42.4%。

【当番外】

2022年度救急患者数は2,138名、うち救急搬送患者数は1,048名、入院率は36.8%。
当番日では救急患者の64%が救急搬送、当番外では約49%が救急搬送で、当番日の救急搬送割合が多い傾向あり。

◇2023年度月別救急患者数合計

資料1-1

2023度4月のみの報告。救急患者数（ウォークイン含む）410名、うち救急搬送患者数は270名、入院率は41.5%。ウォークイン来院は140名で、入院率は12.9%。2022年度の4月と比較して、

救急搬送患者数はほぼ同じ、ウォークイン来院は2022年度233名に対し2023年度は140名と93名の減少。

2022年度のウォークイン来院が多い理由としてコロナの影響を考え140名の内訳を確認したところ、外傷・めまい・尿路感染・腸炎・脳梗塞・イレウスなどの患者が多く、コロナ陽性者8名、発熱・感冒用症状呼吸苦・肺炎などコロナ疑いで受診に繋がった患者は30名ほど。2022年度の2月頃からウォークイン来院の減少がみられるが、はっきりとした原因はわからず。

【当番日】

2023年度4月の救急患者数（ウォークイン含む）281名、うち救急搬送患者数は199名、入院率は44.2%。ウォークイン来院は82名、入院率は9.8%。2022年度の4月と比較して、ウォークイン来院の入院率が減少。

【当番外】

2023年度4月の救急患者数は129名、うち救急搬送患者数は71名、入院率は33.8%。ウォークイン来院は58名、入院率は17.2%。2022年度の4月と比較して、救急搬送患者数は17名の減少、ウォークイン来院は75名の減少。

◇救急車受入困難件数・事由

資料1-3

2023年度4月の救急車受入困難件数は72件。理由としては、各診療科での受入れ困難が26件と最も多かった。内訳は、休日夜間の当直医の専門診療科ではない症例で、脳外科・神経内科など脳血管疾患疑いや、眼科・耳鼻科疾患、精神科対応が予測される症例など。

救急車重複等での受入困難件数は15件。内訳は、救急外来患者の重複が10件、病棟での急変対応中が3件、透析満床が1件、当直医が手術対応となった事例が1件。

二次救急適応外と判断した内訳は、三次へと医師が判断した症例が9件。内容は30代40代といった病院へと医師が判断した事例あり。

前回3月の会議で2023年1月までの報告だったため、2022年度1年間の救急車受入困難件数の報告。1月までの受入れ困難が多かった理由としてコロナ関連の患者の受入れや発熱患者の隔離による待機時間などがあり、救急外来患者重複をなってしまった。2月以降は徐々に減少。

○ウォークイン患者の受診が多い時間帯はいつか。急患センターでも患者を診ているが２４時間対応ではないのでしもつがにウォークイン患者が来ているのではないか。（横山）

・準夜帯、0時くらいまでが多い印象。しもつがにかかりつけのためウォークインでの患者受入れもある。（早乙女）

② 紹介患者に対する医療の実績（紹介率・逆紹介率）

◇地域医療支援病院紹介率・逆紹介率月別調べ

資料2

2023年度 紹介率80.6%、逆紹介率86.3%（4月のみ）

2022年度 紹介率78.2%、逆紹介率82.0% → 2021年度と比較し、逆紹介率がやや減少。

2021年度 紹介率70.4%、逆紹介率85.2%

2023年度の外来の診療体制⇒総合診療科が週3日から毎日となり、腎臓内科が火曜日のみから金曜日の予約枠が増え、より早く予約を入れることができるようになった。

③ 研修会について

◇研修会一覧

資料 3

2023 年度第 1 回の地域医療支援病院研修会を開催。

上半期は、6 月/整形外科領域の運動器セミナー、7 月/連携懇話会、8 月/臨床検査科領域、9 月/看護領域の在宅酸素療法についての研修会を開催予定。

④ 共同利用実績について

◇共同利用件数の実績

資料 4

・2023 年度 4 月の実績　CT　40 件、MRI　104 件、骨密度 12 件、超音波 30 件、ホルター心電図 1 件。
・2022 年度の実績　CT 504 件、MRI 1,406 件、胸腹骨盤レントゲン 4 件、骨密度 130 件、超音波 391 件、ホルター心電図 3 件、脳波 1 件、内視鏡 9 件、総数 2,448 件。
・2021 年度は総数 2,527 件で、2022 年度は 79 件の減少。

（2）その他

○土曜日の紹介について、しもつがに電話をしても繋がらず他院へ紹介したという困ったケースがあった。急患センターとのホットラインのような繋がる連絡方法を考えてもらいたい。（横山）
・今後対策を検討する。（早乙女）

○歯科連携の進捗状況とパンフレットの作成状況について教えてほしい。（町田）
・外来受診時にかかりつけ歯科医を問診表に記載してもらっている。しかし、手術予定の患者の歯科受診紹介に繋がっていない。パンフレットはまだできていない。院内で検討し下都賀歯科医師会監修を依頼する。（早乙女）

（3）次回開催について　　2023 年 9 月 1 日（金）13：30 ～予定

2023年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2023年9月1日（金）13：30～14：00
場所：とちぎメディカルセンターしもつが　A会議室

出席者：横山下都賀郡市医師会副会長　町田下都賀歯科医師会会長　武本栃木地域薬剤師会会長
中村栃木県県南保健所所長　毛塚栃木市健康増進課長
北澤病院長　藤栄副院長　高山事務部長　福田看護部長　早乙女看護副部長

1．開会　　院長　北澤 正文

2．挨拶　　院長　北澤 正文

3．議事

（1）2023年度実績について

① 救急医療の実績

◇2023年度月別救急患者数合計

資料 1－1・2

2023年度救急患者総数（ウォークイン含む）は1,901名、昨年度は2,081名で180名の減少
救急搬送患者数は1,219名、昨年度は1,118名で101名の増加。
ウォークイン患者数は682名、昨年度は963名で281名の減少。
救急搬送患者数は昨年同時期と比較して86名増加している一方、ウォークイン患者数が減少しているため、総数として減少となっている。例年夏季は救急搬送数が多くなるが、今年は特に暑い日が続いたためか救急搬送数が増加していると思われる。

【当番日】
救急患者総数は1,255名（前年比57名減少）
うち救急搬送患者数873名（前年比82名増加）
救急搬送患者数のうち入院患者数358名（前年比15名増加）入院率は41.0%
うちウォークイン患者数382名（前年比139名減少）
ウォークイン患者数のうち入院患者数58名（前年比46名減少）入院率は15.2%

【当番外】
救急患者総数は646名（前年比123名減少）
うち救急搬送患者数346名（前年比19名増加）
救急搬送患者数のうち入院患者数128名（前年比17名増加）入院率は37.0%
うちウォークイン患者数300名（前年比142名減少）
ウォークイン患者数のうち入院患者数41名（前年比43名減少）入院率は13.7%

救急患者総数のうち救急搬送患者数の割合が当番日 69.6%、当番外 53.6%となっており、当番日の救急搬送患者数が多い傾向となっている。前回の会議の際報告した通り、今年の 2 月頃からウォークイン患者数が減少しているが、原因は不明。

ちなみにコロナ禍前の 2019 年 7 月までは、救急患者総数 2,199 名、救急搬送患者数 1,133 名、ウォークイン 1,066 名、比較するとやはり総数は減少しているが救急搬送患者数は 86 名増加している。

○ウォークイン患者数は時間帯によって違いはあるのか。（横山）

・準夜帯、0 時くらいまでが多い印象。急患センターの外科がなくなったことによる当院の受診患者数でははっきりとした増加はみられない。（早乙女）

・クリニックでは 5 類移行後患者数が増加傾向にあるが、かかりつけ医に相談して当日の受診ではなくてもよさそうな病状等の相談ができており本来あるべき数字になったのではないか（横山）

◇救急車受入困難件数・事由

資料 1-3

今年度 7 月までの救急車受入困難件数は 410 件。理由としては、救急重複が 70 件と最も多かった。救急車受入件数も増加していることから、救急部の重複が多く受入困難に繋がったと思われる。

二次救急適応外と判断した内容は、7 月の 30 件のうち三次へと医師が判断した症例が 17 件。

理由はコロナ要請患者の酸素飽和度 80%台の症例や、ショックバイタル、交通外傷の開放骨折等であり、かかりつけ医は直近まで入院していた病院へと判断した症例であった。

各診療科での対応困難も 40 件と多かった。内訳は当直帯の夜間が 26 件、土日祝祭日の日中が 6 件理由は脳神経外科、脳神経内科における脳血管疾患疑いや、緊急心カテや精神科の対応が予測される症例などが受入困難に繋がった。また 7 月は整形外科の診療体制で一時的に受け入れを制限していたこともあり、整形外科関連で 7 件の受入困難があった。

その他の 18 件は管内対応をお願いしたケースが多くみられた。

○栃木県内の消防本部情報交換会が開催された。どの消防署も昨年が最大の救急要請件数であったが、今年はそれをさらに上回る救急要請件数で、栃木地区だけでなく県内全域でひっ迫しているとの報告があった。発熱の相談が多いが、発熱だけでは…と断られるケースがある（中村）

・当院では発熱だからといって断るケースはあまりない。しかし発熱患者が重複してしまうと抗原検査の結果がでるまでに時間を要するため、個室待機ができないので重複としてお断りに繋がってしまう可能性もある（早乙女）

・当院では検査をスムーズにするため抗原定量検査から抗原定性検査に移行した（北澤）

・発症からまだ時間が経過していない患者さんは定性では危険ではないか（横山）

・入院患者においては、同時に定量の検査をおこない結果がでるまで病棟へ上がらないように感染リスク対策をしている（福田）

② 紹介患者に対する医療の実績（紹介率・逆紹介率）

◇地域医療支援病院紹介率・逆紹介率月別調べ

資料 2

2023 年度 紹介率 84.0%、逆紹介率 84.7%（4～7 月）

2022 年度 紹介率 78.2%、逆紹介率 82.0%

2023 年 7 月の紹介率は 87.1%、逆紹介率は 92.8%であった。紹介患者数は 701 名と最も少なかったが、初診患者数も 805 名と少なったため、割合としては高くなった。

地域医療連携室では今年度、逆紹介の推進のため、診療所の先生方にご協力いただいて各診療所の情報をまとめ、電子カルテからすぐ閲覧できるようなデータを現在作成中。実際の活用に向けて院内へ周知していく予定。

歯科連携については、システムの準備はできているが院内での連携が課題である。すべての患者へ問診時にかかりつけの歯科医を確認しているが、口頭での説明のみで診療情報提供書がないまま入院前歯科受診となったケースがみられた。今後は運用がスムーズにいくよう院内周知に努める。

○歯科医診療について診療情報提供書なしに紹介されると保険料の算定ができないため困る。

手術日が迫っている場合、術前に歯科医の予約が取れないケースがある。その場合、かかりつけの歯科医でなくても、歯科医師会の事務局に連絡すれば対応できる歯科医師を紹介する（町田）

・問診時に聴取したかかりつけ歯科医宛に診療情報提供書を作成して、患者が予約の連絡をしたが手術日までの歯科医受診が難しい場合に相談してもらう、ということになる（早乙女）

・術前、術後、入院中に関係なく診療時間外でも事務局で対応するので相談してほしい（町田）

・再度、院内の対応方法を検討する（早乙女）

③ 研修会について

◇研修会一覧

資料 3

2023 年度は現在まで 4 回の地域医療支援病院研修会を開催。

今年度の新たな試みとして臨床検査科主催の研修を 8 月 30 日に実施。しもつがだけでなく法人内の臨床検査技師や法人外の医療従事者の参加もいただいた。9 月には第 2 回症例検討会開催予定。

④ 共同利用実績について

◇共同利用件数の実績

資料 4

2023 年度 7 月までの実績

CT:163 件、MRI:440 件、骨密度:52 件、超音波:119 件、ホルター心電図:1 件、内視鏡:1 件

総数としては昨年度同時期と比較して 67 件減少、内訳は MRI が 50 件の減少している。

（2）その他

○救急科常勤医師が不在になった。当面、非常勤医師 1 名体制で診療する（北澤）

（3）次回開催について　　2023 年 12 月 1 日（金）13：30 ～ 2 階講堂（予定）

4．閉会　　院長　北澤 正文

2023年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2023年12月1日（金）13：30～14：00
場所：とちぎメディカルセンターしもつが　講堂

出席者：横山下都賀郡市医師会副会長　町田下都賀歯科医師会会長　武本栃木地域薬剤師会会長
中村栃木県県南保健所所長　毛塚栃木市健康増進課長　中村栃木市消防本部警防課長
赤羽根救急管理係長（代理出席）北澤病院長　藤栄副院長　永島総合連携推進部長
高山事務部長　福田看護部長　早乙女看護副部長

1．開会　　院長　北澤 正文

2．挨拶　　院長　北澤 正文

3．議事

（1）2023年度実績について

① 救急医療の実績

◇2023年度月別救急患者数合計

資料 1-1・2

2023年度救急患者総数（ウォークイン含む）は3,542名、救急搬送患者数は2,223名、救急来院患者の62.8%。救急搬送患者の入院は898名、入院率40.4%。
ウォークイン患者数は1,319名、うち入院195名、入院率14.8%
救急搬送患者数は昨年同時期と比較して総数3,542名に対して、昨年度の10月までは3,655名。総数として113名の減少。救急搬送数は、昨年同月1,999名で、224名の増加。
ウォークインは、昨年同月1,656名で、337名の減少。全体は113名の減少で、救急搬送は、224名の増加。
月別では、例年7月8月は熱中症等の救急搬送が多い傾向である。今年度は暑かったこともあり、昨年度よりさらに増加。8月は383名のうち、コロナ患者の搬送は43件。熱中症は17件。9月も300件以上となる。疾患別患者数326名のうち、コロナ患者が最も多い41名。その次に脱臼、腰痛、打撲など整形領域の体動困難が約40名、骨折29名、外傷20名、肺炎19名、めまい18名、意識障害14名、胸痛・不整脈などの心疾患関連13名、尿管結石14名、頭部打撲・硬膜下血腫14名、腹痛・急性腹症13名、その他様々な疾患での搬送となった。熱中症は5名。
ウォークイン患者は昨年同月までと比較すると337名の減少。全体的に少ない傾向だった。昨年7月は、ウォークイン患者が288名と多く、入院患者63名、入院割合20%を超えた。(63名の内訳はコロナ患者12名、脳梗塞10名、骨折6名、胆のう炎4名）今年度は平均して救急搬送患者の40%、ウォークイン患者の15%が入院となった。

【当番日】

救急患者総数は2,341名（前年比10名増加）

うち救急搬送患者数1,579名（前年比374名増加）

救急搬送患者数のうち入院患者数669名（前年比53名増加）入院率は67.4%

うちウォークイン患者数762名（前年比143名減少）

【当番外】

救急患者総数は1,201名（前年比123名減少）

うち救急搬送患者数644名（前年比71名増加）入院率は53.6%

うちウォークイン患者数557名（前年比194名減少）

当番日では、救急患者の67.4%が救急搬送、当番外では、約53.6%だった。当番日の救急車割合が多い傾向となっている。当番日当番外ともに、救急搬送数は増加となった。

◇救急車受入困難件数・事由

資料1-3

今年度10月までの救急車受入困難件数は829件。理由としては、「救急重複」が307件と最も多かった。特に8月は、186件の受入困難があり、3割を超えた。8月は救急患者が641名、救急搬送は383件と多く、昨年の実績からみても最も救急搬送が多かったことから、「重複」による受入困難になったと思われる。「各診療科での対応困難」も240件と多かった。10月は「重複などの物理的理由」は減少したが、「各科診療科での対応困難」が38件と多い傾向だった。３８件のうち27件は夜間の受入困難だった。理由別では、循環器疾患が疑われる症例の受入困難が最も多い。次に夜間の頭部外傷や脳血管疾患疑う症例や精神科対応が考えられる症例が多くみられた。

10月は循環器内科医師が急遽一人体制となり、受入制限をしていた時期があったため、循環器の受入困難が多くなり、ご迷惑をかけてしまった。

○質疑

・コロナ患者の受入のケースは診療所で診ていて悪くなって搬送になったのか。（横山）

・発熱・骨折・体動困難などで搬送され、搬送後にコロナと判明した患者が多くみられた。（早乙女）

・今年度、現場の救急隊から救急搬送の受入件数が上向きだと報告があった。重なってどうしても受入れてもらえないこともあるが、救急隊側としては助かっている。（中村）

・夜間の循環器の受入は厳しいか（横山）

・当直医師の専門領域により受入れ困難と判断するケースがある。（早乙女）

② 紹介患者に対する医療の実績（紹介率・逆紹介率）

◇地域医療支援病院紹介率・逆紹介率月別調べ

資料2

2023年度 紹介率83.3%、逆紹介率82.3%（4～10月）

7月は紹介患者数が701名と最も少なかったが、初診患者数も805名と少なかったため割合としては87.1%となった。8月以降の初診患者・紹介患者数は増加傾向となった。

逆紹介については、逆紹介がスムースにすすめられるよう、患者への啓蒙として、外来に『かかり

つけ医をもちましょう』というポスターを掲示している。外来診察室にも掲示し、医師から説明しやすい環境を整備している。複数の診療科を受診している患者は、なかなか逆紹介を納得いただけない場合がある。病院全体での取り組みとして逆紹介を勧めていきたい。

③ 研修会について

◇研修会一覧

資料３

2023年度は現在まで7回の地域医療支援病院研修会を開催。

9月には、第2回目の症例検討会を開催した。会場参加は少なかったが、Webで多くの先生方に参加いただいた。新たな試みとして理学療法士による研修会を開催した。地域の理学療法士の方から、シリーズ化して欲しいとの要望あり、来年度に向けて検討していきたい。今月21日、緩和ケアの研修会を予定している。連携ニュースに同封しご案内させていただいた。

④ 共同利用実績について

◇共同利用件数の実績

資料４

2023年度10月までの実績

CT302件、MRI677件、胸部腹部骨盤等の単純撮影6件、骨密度88件、超音波213件、ホルター心電図1件、内視鏡3件。総数としては昨年度同時期と比較して169件減少。内訳はCTが8件の増加。MRIが165件の減少。原因不明のため利用についての不便さなどないかなど問題点を聞き取り、利用している先生方や今まで利用の無い先生方へご案内をしていきたい。

昨年から在宅療養後方支援病院の届出を行い、約1年が経過した。累計で58名の患者登録があり、現在までに22名の入院患者の受入れを行なった。

〇質疑

・健康診断で、封筒に入っている紹介状を持ってくる場合と、所見用紙と一緒に紹介状を持ってくる場合がある。紹介状とみなしていいのか。患者がしもつがに電話で問い合わせをしたら、よく分からない返答だったと言うので、新たに紹介状を作成した。（横山）

・紹介状の書式も色々あり、用紙を見てみないと分からないところがある。紹介状扱いになるかどうかは、連携室に相談していただきたい。紹介状扱いにならない場合、患者に選定療養費が発生してしまうことになるので、電話での相談では、できるだけ診療所にかかってもらってからと案内したのかもしれない。（早乙女）

・栃木市の検診はA3用紙二つ折りの紹介状。A4用紙で結果を確認することもある。（毛塚）

（２）その他

・３月３日（日）下都賀歯科医師会主催で市民公開講座を予定。

場所：サンプラザ　　時間：午前10時～12時　　参加費無料

テーマ：フレイル対策『お口と栄養の話』　講師：森永乳業の管理栄養士。

多くの人に参加していただきたい。ポスターができ次第配布予定。（町田）

・市民の声として、紹介状を持ってしもつがにかかりに行ったら、待ち時間が長いと４名の方から同じ内容の相談があった。（町田）
・私の声として、苦情やお褒めの言葉を書いてもらい、月１回正面入り口右側に掲示している。その中で、待ち時間が長いという声が多々あり、対応を検討している。（北澤）
・10 月から第３金曜日の救急体制整備委員会に参加し、情報交換をさせていただいている。受入困難の事例を詳しく検証して、搬送に関してより良い方向になればいいと思っている。（赤羽根）

（３）次回開催について　　2024 年３月１日（金）13：30 ～ ２階講堂（予定）

４．閉会　　院長　北澤 正文

2023年度

とちぎメディカルセンターしもつが 地域医療支援病院運営委員会議事録

日時：2024年3月1日（金）13：30～14：00
場所：とちぎメディカルセンターしもつが　講堂

出席者：横山下都賀郡市医師会副会長　町田下都賀歯科医師会会長　武本栃木地域薬剤師会会長
毛塚栃木市健康増進課長　赤羽根救急管理係長（代理出席）
小泉診療部長（代理出席）　永島総合連携推進部長　高山事務部長
福田看護部長　早乙女看護副部長

1．開会　　診療部長　小泉　大

2．挨拶　　診療部長　小泉　大

3．議事

（1）2023年度実績について

① 救急医療の実績

◇2023年度月別救急患者数合計

資料1-1、1-2

2023年度1月までの報告。救急患者数（ウォークイン含む）5,074名、うち救急搬送患者数は3,221名、救急搬送患者率は63.5%。救急患者の入院数は1,295名、入院率は40.2%。ウォークイン来院は1,853名で、入院数は274名、入院率は14.8%。

2022年度と比較すると救急患者数（ウォークイン含む）2022年度1月までは5,101名で27名の減少。救急搬送患者数2022年度1月までが2,919名で302名の増加。ウォークイン来院は2022年度1月までが2,182名で329名の減少。

救急患者数は27名の減少だが、救急搬送患者数302名の増加となった。

月別では2023年度7月8月は熱中症等、2022年度よりさらに増加がみられ350件越え、9月以降も2022年度より救急搬送患者数は多くなっている。特に2022年度と比較し多かったのは12月の371件。1月は2022年度と同じ救急搬送患者数で、受入れ困難数が過去にない件数となっており、救急搬送依頼が多かったと思われる。2023年度はすべての月で2022年度件数を上回っていた。入院率は40%と2022年度とほぼ同じ割合。ウォークイン来院は減少傾向。独居の高齢者が多いことも救急搬送に繋がる要因ではないかと推察する。

【当番日】

救急患者数（ウォークイン含む）3,194名、2022年度と比較し12名の減少。

救急搬送患者数は2,197名、2022年度と比較し179名の増加。

救急患者の68.8%が救急搬送。

救急患者の入院数は924名、2022年度と比較し53名の増加。入院率は42.1%。

ウォークイン来院は997名、2022年度と比較し191名の減少。

【当番外】

救急患者数（ウォークイン含む）は1,880名、2022年度と比較し15名の減少。

救急搬送患者数は1,024名、2022年度と比較し123名の増加。

救急患者の54.5%が救急搬送。救急患者の入院率は36.2%

ウォークイン来院は856名、2022年度と比較し138名の減少。

当番日・当番外の比較では、救急患者の救急搬送割合が当番日の方が高い傾向。救急搬送患者の入院割合も高い傾向。

◇救急車受入困難件数・事由

資料1-3

2023年度1月までの救急車受入困難件数は1,393件。理由としては、救急車重複が576件と最も多い。特に1月は279件の救急車受入困難件数があり、4割を超えている。

2022年度は12月1月と200件を超える救急車受入困難件数があり、理由として救急車重複や満床など物理的な理由が多かった。

2023年度1月は救急車重複や満床など物理的な理由が169件と多くみられた。1月は19日に発生した新型コロナの院内クラスターによる一部入院制限があり、病床確保が難しく多くの救急車受入困難になってしまった。

2月に入り、クラスターが収束したことから入院制限はなくなった。冬場の特徴として、入院患者は多い傾向にあり病床管理が困難な状況になる時もある。

1月の各診療科での対応困難は57件、うち約20件の脳血管疾患を疑う夜間休日が多くみられた。

【質疑】

○当院でお断りとなった場合、どこの病院に搬送されることが多いのか。（永島）

・場所にもよるが、南の方なら佐野厚生総合病院・新小山市民病院・光南病院、場合によっては古河病院、北の方なら西方病院・上都賀総合病院・御殿山病院など。二次医療機関で診てもらえない場合は獨協医科大学病院へ受け入れてもらうこともある。（赤羽根）

○脳血管系の受入判断というのはどういうものなのか。（横山）

・平日日勤帯はご紹介の先生から経過を教えていただき判断できるが、夜間休日は発症時間等が曖昧だったりすると判断が難しく、t-PA治療のことも考えるとお断りになってしまう。（早乙女）

② 紹介患者に対する医療の実績（紹介率・逆紹介率）

◇地域医療支援病院紹介率・逆紹介率月別調べ

資料2

2023年度1月までの累計で紹介患者数7,646名、 紹介率83.5%、逆紹介率85.8%。

2022年度1月までの累計と比較し、241名の増加。

2023年度 12月は817名の紹介があり、特に整形外科と消化器内科に100名を超えるご紹介あり。逆紹介は、整形外科も消化器内科も100名を超えているが、循環器内科の逆紹介も増加傾向にある。逆紹介がスムーズに勧められるように『かかりつけ医をもちましょう』というポスター掲示など、医師から患者さんに説明しやすい環境整備をしている。

③ 研修会について

◇研修会一覧

資料 3

2023 年度 2 月までに 11 回の研修会を開催。

直近では 2 月 22 日に Web で症例検討会を開催。

3 月 21 日は、12 月に急遽中止となった緩和ケア研修会を開催予定。

④ 共同利用実績について

◇共同利用件数の実績

資料 4

2023 年度 1 月までの件数　CT 427 件、MRI 945 件、胸部腹部骨盤の単純撮影 9 件、骨密度 108 件、超音波 292 件、ホルター心電図 1 件、内視鏡 4 件。

2022 年度 1 月までと比較し、241 件の減少。CT は増加、MRI は 227 件の減少。原因は不明。

（2）その他

・先日、登録医療機関の先生から図書館の利用に関するご相談があり、ご利用いただいた。
先生方の研究などにご利用いただければと思いますので、連携室までご連絡をください。

・在宅療養後方支援病院の役割として、累計で 66 名の患者さんの登録をいただき、現在は 42 名の患者さんの登録あり。今まで 25 名の入院を受入れ。

【質疑】

○3 月 3 日下都賀歯科医師会主催の市民公開講座の件で、周知や広報活動はどうだったのか。(町田)

・ポスターをしもつが・とちのきに掲示し、パンフレットは窓口に配ってある。(永島)

○下都賀歯科医師会でインプラント CT はどれくらいの利用件数があるのか。(町田)

・すぐに返答できず、調べて後日お伝えする。(早乙女)

⇒ 2022 年度 13 件、2023 年度 2 月まで 10 件。

（3）次回開催について　　2024 年 6 月 7 日（金）13：30 ～予定

（様式例第19）　　患者相談の実績

患者相談を行う場所	(患者相談窓口)　医療福祉相談室
主として患者相談を行った者 （複数回答可）	事務職員・社会福祉士　看護師
患者相談件数	549　件
患者相談の概要	
別紙のとおり 「2023年度　患者相談窓口対応の実績」	

（注）　患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

2023年度　患者相談窓口対応の実績

【相談内容別】

相談内容	件数
疾患・診療に関すること	121
生活・入院上の不安	210
職員対応に起因する苦情	63
その他	155
合計	549

【相談者別】

相談者	件数
患者	174
家族	160
行政	46
福祉サービス	51
その他	118
合計	549

主な事例

1. 疾患・診療に関すること
   ・外来待ち時間が長い⇒　外来運営員会で継続検討中

2. 生活・入院上の不安
   ・入院患者の家族より、入院中の様子を知りたい、退院と言われたが相談したいなど　⇒　該当病棟へ対応を依頼。

3. 職員対応に起因する苦情
   ・入院患者の家族より、入院中の看護師や医師の言動について。
   　例　入院時の声掛けで、「おわかれの時間です」と言われた。
   　　局所麻酔の手術時に、医師が「さっきはあぶなかった」などの発言あり

4. その他
   ・コロナの院内感染した際の病衣の支払いについて
   ⇒　院内で対応を検討し、総務課より家族へ連絡し当院で支払いとなった

様式例第19）　　患者相談の実績

患者相談を行う場所	患者相談窓口　医療福祉相談室
主として患者相談を行った者 （複数回答可）	社会福祉士　精神保健福祉士 看護師
患者相談件数	5803　件
患者相談の概要	
別紙のとおり 「2023年度　医療福祉相談室相談の実績」	

（注）　患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

2023年度　医療福祉相談室相談の実績

1.ケースの人数

区分	件数
総数	7,330
実人員	526
新規	448
継続	6,882
継続実人員	451

2.対象者

区分	件数
入院	5,887
外来	1,346
自宅	23
その他	74

3.住所

区分	件数
栃木市	4,282
大平町	919
岩舟町	538
藤岡町	687
都賀町	258
西方町	18
壬生町	206
小山市	185
その他	237

4.相談方法

区分	件数
面接	557
電話	3,640
訪問	3
文書	10
来所	220
その他	2,900

5.相談者

区分	件数
本人	931
家族	1,096
院内職員	2,985
行政機関	518
施設・医療機関	1,270
居宅支援事業者	376
その他	154

6.相談内容

内容	件数
経済的な問題に関すること	91
退院に関すること	776
障害者支援に関すること	24
行政との連携に関わること	360
治療の問題に関わること	228
カンファレンス	48
その他	5,803

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
2024年1月　受審　8月認定　公益財団法人日本医療機能評価機構 （主たる機能：一般病院2　機能種別版評価項目3rdG：Ver.3.0）	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法：連携ニュースの発行　ホームページ　広報誌 ・内容等の概要：研修会のお知らせ・休診のお知らせ ・とちまるネットの活用（平成28年5月より）	

3　退院調整部門

①　退院調整部門の有無	有・無
・退院調整部門の概要：専任看護師　専任社会福祉士 病棟カンファレンスへの参加、患者面接を行っている。	

4　地域連携を促進するための取組み

①　地域連携クリティカルパスの策定	有・無
・策定した地域連携クリティカルパスの種類 脳卒中クリティカルパス・大腿骨頸部骨折パス・糖尿病地域連携パス・ ・地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み	